

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	中央図書館及び博物館改修事業			会計	款	項	目	大事	小事
				01	10	05	07	01	55
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課		図書・博物館			
施策	3-1	いつでも、どこでも、誰もができる生涯学習の推進		主管課長		小栗 信一郎			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	図書館・博物館利用者	意図	利用者の安全を図る。
事業内容	昭和53年に開館以来、老朽化した博物館ハロゲン化物消化設備の修繕・図書館エレベーターの更新を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和53年に開館以来、老朽化した博物館ハロゲン化物消化設備・図書館エレベーターの不具合発生が心配されており、できるだけ早く改修が求められている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標		名 称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①					円		
	②					円		
	③					円		
	④					円		
	⑤							
	⑥							
指標で表すことができない定性的な成果						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 図書館・博物館利用者の安全を図るため、図書館エレベーター・博物館ハロゲン化物消設備更新・改修を行った。		
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)				33,642,270				
事業費（b）（円）				27,732,240				
うち一般財源				27,732,240				
職員給与費(c)(円)				5,910,030				
人役・職員(人)				0.84				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)				0.21				
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト（円）（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	図書館・博物館利用者が不安・不快に感じることがないように、安全な設備として保全する。	③取組における課題(Check)	さらなるバリアフリー化や施設の経年劣化に伴う修繕を進めていく必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	博物館ハロゲン化物消化設備の修繕・図書館エレベーターの更新を行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	個別施設修繕計画を進める必要がある。